

平成 2 2 年度
第 4 期 新南陽地区地域審議会（第 1 回）
会 議 録

日 時 : 平成 2 2 年 7 月 1 5 日 (木)
場 所 : 新南陽庁舎

【会 議 次 第】

1．開会

2．市民憲章唱和

3．新南陽総合支所長あいさつ

4．(仮称)学び・交流プラザ整備基本構想(案)について

5．質疑および意見

6．今後の運営について

7．閉会

平成22年度 第4期新南陽地区地域審議会第1回 会議録

日 時 平成22年7月15日(木) 開会 午前10時00分
閉会 午前11時45分

場 所 新南陽庁舎 4階41会議室

出席者 ・委員 13名 (欠席 2名)
吉岡 清忠、原田 常代、川田 由美、吉谷川 亮(会長)、
国澤 千佳子、山本 邦子、山根 光正、井上 真由美、
山崎 勝幸(副会長)、岡田 昭彦、樫本 百合子、宮崎 進、
渡部 美紀江
・事務局 6名
大野新南陽総合支所長、三浦支所次長兼地域政策課長、
足立地域政策課長補佐
(教育委員会)
青木教育部長、宮本生涯学習課長、中村係長

資 料 (仮称)学び・交流プラザ整備基本構想(案)
(仮称)学び・交流プラザ整備基本構想(案)【概要版】
(仮称)学び・交流プラザ整備基本構想(案)説明会スケジュール

会 議 議 事 録

1. 開 会

2. 市民憲章唱和

3. 新南陽総合支所長あいさつ

4. 議 事

(1)(仮称)学び・交流プラザ整備基本構想(案)について

議長(会長)

おはようございます。今日は、災害が発生している中、お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。仮称「学び・交流プラザ」の基本構想(案)については、昨日市議会で説明されたということですが、この後、説明していただきます。スケジュールが、非常に厳しくなっておりまして、要望等があれば、8月中にまとめて欲しいということを踏まえまして、われわれも、せっかく造るのでしたら、魂の入った建物にしたいと思いますので、また、皆さん方にご苦勞をおかけしますが、今日の審議を含めて、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、説明をお願ひしたいと思います。

教育委員会

(仮称)学び・交流プラザの基本構想(案)について説明

議長

はい。どうもありがとうございました。皆様方の、質疑、ご意見がございましたらお願ひします。

委員

まず、基本的なことをお聞きします。合併前の協議会で出されたときの構想と、現在、提案されている構想とは、だいぶ変わっていると思います。その辺の考え方について、分かる範囲で説明をお願いします。

教育委員会

今、ご指摘をいただきましたことにつきましては、こちらの基本構想(案)のほうの4ページをご覧くださいと思います。

こちらの左側に、当時、合併協議会において、作成された、新市建設計画のときの21のリーディングプロジェクトを抜粋しております。(仮称)学び・交流プラザ整備事業としまして、概要等が掲載されています。

ただ、この中で、例えば、国際交流、それから女性センターに関しては、生涯学習機能の中に位置づけをして、事業を進めたいと考えております。

それから放送大学につきましては、ただ今、調査検討中でありまして、組み込めるかどうか、検討を深めてまいりたいと考えております。

委員

われわれの夢も形に一步近づいたのだと思ひまして、先ほどの説明を聞いて、非常にうれしく思ひました。ありがとうございます。

高齢化とか、平均寿命が80歳を超えて、生涯学習が広い意味で大事なことだと思ひます。そのあたりが、非常によく盛り込んであるのですが、この30億円のお金で、これをちゃんとできるような施設ができるのだろうか、どうだろうか。

教育委員会

今回、皆様にお示しさせていただいたのが、基本構想（案）というものでございまして、具体的な建物のイメージ的なものは、この時点では、お示しできない状態です。これをベースに、今から設計に入っていきまして、何階建てのどういうものになるのかというのは、まさに今からでございます。いろいろなご要望、ご意見を承りまして、設計の中に反映させて頂いて、こんな建物なのかというイメージができましたら、その時点で、再度ご説明をさせていただきたいと考えています。

それから、この事業は、ハード的には確かに30億かけまして、こういう、施設を今から造っていくわけですが、一番大事になってくるのは、その中のソフトになってくるもので、勝負していかなければならないと思っています。

そのあたりは、今からまたいろんな場で、ご意見をいただきながら、人を育てていく事業をこの場所で進めていけるように、検討を深めたいと思っています。

委員

建物を建てた後の、維持管理費というのは、当然これから毎年、掛かってくると思いますが、この辺の試算はされているのでしょうか。

教育委員会

具体的な数値というのは、ある程度建物の概要ができた時点で当然試算をする必要があると思っています。ただ、現在、それぞれの施設が単独で、分散して建っており、職員も分散して配置しています。これを複合化することによって、効率の良い運営ができ、維持管理費の節減にもつながると思います。コンパクトで効率の良いものにしていきたいということで、設計の中で反映させたいと考えています。

委員

駐車場は、現在と比較してどのようになるのですか？

教育委員会

現状につきましては、構想（案）の現状の分析というところ、14ページをお開きいただきたいと思います。現在の駐車スペースは、155台でございます。現在の駐車場は、かなり分散しており、使い勝手も悪い状況だろうと思います。このあたりもある程度集約して、できるだけ駐車スペースを広げたいと思っており、なるべくこれからの設計の中で、駐車場の確保もしたいと考えています。

委員

今日はじめて説明がありましたが、設計を間に合わせるために、こういう会合を何回ぐらい予定していますか。われわれも、これを見てからすぐ云々というのは、皆さん難しいと思うのです。もう少し研究し、そういう意見を反映するためには、どのくらい、時間がありますか。

教育委員会

今日の地域審議会の説明会が、実を言うとスタートです。この後、富田地区のコミュニティが検討委員会を立ち上げられ、説明会を要望されていますので、説明に参ります。

また、体育館とか、公民館などの利用者との協議も設けています。さらには、パブリックコメントを来月から実施しますし、全市民の方を対象とした市民説明会も予定しています。

委員

分かりました。いろんな市民の方の意見を聞いてもらいたいと思いますし、それを、できれば反映して欲しいと思います。

また、新しく造る複合施設の中に入る、体育施設には、見物席は無いのではないかと、いう話も聞いたのですが、体育施設を使うのは、老人クラブも、各種団体もみな幅広く体育館を使っているわけで、ただスポーツをするだけではなくて、見物ができる場所も必要だと思います。その辺も考慮していただきたい。今の敷地で足りなければ用地買収をしてでもやるという考えは無いのですか。

教育委員会

用地買収をしての建設は、たいへん時間もかかります。はっきり言って、平成26年の供用開始というのは、できないだろうと思います。したがって、今の段階では、現有の施設の敷地の中でやるというのが、この基本構想(案)でございますので、用地買収をして、広さを求めるという考えはもっておりません。

ただ、西側の国鉄清算事業団から土地開発公社が購入している土地につきましては、市が買い戻すということでこの計画を立てております。

委員

中央公園は、ここの区画整理事業を進める上で、絶対に必要であるということで設置されましたので、のけられるものではありません。しかし、公共工事をやっていくときに、入れ替えはできるのではないですか、どうですか。

教育委員会

今あるところの場所は、東側と南側が大きな通りに面しており、使い勝手のいい場所にあり、形の上でも公園として非常にきちっとした形になっている、ということなどがあり、公園の価値が落ちるような形では、その移転というのは難しいと考えております。

議長

まず、ハードを造ってからソフトを考えるのではなくて、この生涯学習センターにどのような機能が必要であるかを、きっちり把握していただかないと、ハードの設計ができないのではないかと思います。

委員

基本構想の考え方の中で、生涯学習センターとして使うという方針が書いてありますが、この施設は、この地域の間人だけが、古くなった建物を壊して、ちょっと便利にして使うということなのか、そうではなくて、本当に周南市の人づくりの拠点とするのなら、この(仮称)学び・交流プラザに中央公民館を置き、それから中央図書館の機能を持ってくるといふ考え方があるのでしょうか。

教育委員会

生涯学習センター機能は、市民館のところにある中央公民館の中に有しております。このたびの（仮称）学び・交流プラザ整備事業は、市の生涯学習の拠点施設でございますので、生涯学習センター機能をこちらに移すということになっております。

現在、全市的ないろんな講座は、中央公民館で開催し、会場は市民館を使っています。今度の（仮称）学び・交流プラザが完成すれば、この中に入る生涯学習センターが、広報等でご案内をし、学び・交流プラザの施設を会場として使っていくこととなります。

また、生涯学習センター機能として、いろんな情報の提供、生涯学習に関する相談窓口といったものも、当然、こちらの学び・交流プラザで行うことを考えております。

それから、図書館に関しましては、現在、市内全図書館がネットワークでつながっておりますので、市内の図書館のものは、どこの図書館からでも、貸し借りいただけるようになっております。したがって、中央図書館は、今の中央図書館として維持しながら、こちらの方では、今の新南陽図書館を引き継ぐように考えております。

委員

市内図書館が全てネットワークで結ばれているなら、何も今の徳山に中央図書館が、機能としてなくてもいいわけです。本当にここを人づくりとその文化の拠点にするというなら教育委員会だって、ここへ持ってきたっていいと思います。

議長

図書館の蔵書は、それを利用される住民の人口で決まるのだと思いますが、いろんな機能を一元化することが、大切なことだと思います。つまり、生涯学習の管理拠点がこのエリアにあって、そこから発信して、全体を一括して運営するということです。何もハードを分担するのではないのです。政策の分担なのです。この政策の分担を、きっちりやっていただければ良いと思います。北九州も都市合併していますが、見事に機能分担をやってあれだけ大きくなっています。そういう発想があっても良いと思います。いわゆる小倉区は住宅エリアにする。八幡は文化エリア、それから医療エリアにするといった発想が、最初にきっちり決まっていたのです。それで、各エリアを競わせることによって活性化を進めています。

周南市においては、生涯教育機能の中核的な所が、新南陽エリアであるという形をソフトの部分を議論する場合、頭の隅においていて欲しい。

教育委員会

そうですね。生涯学習センター機能は、こちらにもってくるという形で。職員も含めて、人をここに配置して、周南市の生涯学習を担い、市民とともに担っていくという発想でいます。生涯学習と言いますと、スポーツもあり、図書館もあり、公民館もあります。例えば生涯スポーツについて、スポーツの拠点を物理的にここへもってこれるかという、体育協会が、今、ある部分を担っておりますけれども、その体育協会も含めて、人材をここへ集約するということは、現実的には難しいわけです。図書館においても中

中央図書館にある人材が、今、図書館行政の全体的な総括をしていますけれども、その辺をここにもって来るのがいいのか、生涯学習のいろんな場であるスポーツや図書館や公民館などをどこに集約するかという問題は、個別には、場所的なものもあると思います。教育委員会事務局をもつて来るのも、やはり、ある程度、場所的なものもあると思います。ただ、少なくとも、その総括である生涯学習センター機能は、徳山地区からここへもつて来るという形で周南市全体をまかなう、という構想はこれの大きな目玉ですので、その辺からまず始めさせていただきたいと思います。

委員

時間的に余裕がないという説明では、また、いろいろ不満がありますが、そんなに時間はないかもしれませんが、我々も、せっかく委員に選任されましたので、努力しなければいけませんし、行政の方も、地域に対してきめ細やかな説明と、地域からの意見を吸い上げていっていただきたいと、要望しておきます。

委員

さっき言いましたように、長年意見具申してきた夢が形に見えたのだから、まあ、例えばですね、環境産業コーナーとかを入れて、いろんな企業さんからもお金を出してもらって、よそから来た人に対して、紹介できるというようなソフト面について、どんなことが具体的にできるのかを練ることが大事なことではないかと思います。

委員

新南陽では、行政と市民とが一体となって、町づくりがされてきましたが、現在よりもいろんな面で進んでいたと思います。そういうものが全部消えている現状の中で、人づくりの拠点となる、学び・交流プラザができるのであれば、中央公民館機能や中央図書館機能の全部ではなくても、その拠点の拠点になるものは、やはりここに置くというところからスタートしてもらいたいと思います。施設に見合う拠点となるものを市民は、当然求めていると思いますが。

教育委員会

公民館というのは、やはり、各地区にあるもので、生涯学習センターは、その統括としてあるというのが、今のこの基本的な考え方です。

図書館については、図書に親しんでもらうようないろんな事業を展開する場所が、ここにでき、ここを中心に、そういう事業が展開されるものと、私どもは思っております。

委員

図書館のことですけれども、西小学校には2、3年前から司書の先生においでいただいております。子どもたちはすごく読書量が増え、授業のほうの調べ学習が、とても盛んになっています。新しくできる図書館が充実してもらえると、そういう活気も出ます。機能をもっと充実させていただいて、全国にも誇れるようなものができれば良いと思います。

委員

学び・交流プラザができるのだったら、そこを老人クラブの、高齢者の拠点とさせてもらいたい。いろんなサークルやクラブで、公民館や西部市民交流センターを使わせてもらっている。以前は、老人福祉センターを使用していたのですが、1回目は良くて、交通の便が悪いので、2回目から人が減ってきます。そういうことから、できれば、われわれ老人クラブも「学び・交流プラザ」に拠点を置かせてもらえれば幸せなんですけれども。

議長

ぜひ、今のご意見も考慮していただきたい。今、おっしゃったように、足の問題から、二度といかなくなっています。今、嶽山荘、老人福祉センターでは、バスを運行していますが、朝9時に入って、夕方の3時か4時まで帰れない。

委員

体育館ですけれども、この施設は、スポーツ用だけの体育館になるのか、それとも多目的の考えでいらっしゃるのか。それが、どうしてかと言うと、敬老会では、福川地区の場合、ふれあいセンターで行われますが、あその中で、食事をする事ができて、一日楽しく過ごして帰られます。富田地区の方は、社会文化ホールで行われますが、お茶も飲んではいけないうし、式典が終わったら帰ることとなるので、福川地区はいいねという話も、時々入ってきます。それで体育館がどういう施設になるのかなと思ひまして。

委員

食事のできる設備、施設(レストランなど)は、学び・交流プラザには入るのですか？

教育委員会

検討させていただきます。

委員

ぜひ入れていただいた方が良くと思います。

教育委員会

利用する人は、そういう声が多いと思います。

委員

駐車場の件ですが、イズミでは、この大雨の中でもすごく客が多かったそうです。それは、屋根が駐車場についているからで、そう言われてみれば、下松の方にある商業施設もみんな駐車場に屋根があります。雨が降ったときに、荷物をもって、傘差して、子供を抱えて、本だの、お稽古道具と持ったりするのも、なかなか大変なので、立体駐車場にして、駐車スペースを確保してはどうですか。

教育委員会

はい。そうですね。わたしどもも実際考えていますが、財源の問題もあります。

委員

社会文化ホールはなくなるのですね。それに変わるようなホールはできるのですか。

教育委員会

それに変わるものは考えています。

委員

どれくらいの収容人数でしょうか。

教育委員会

わたしどもも、今の社会文化ホールのホール機能は、重要だと思っています。ただ、今言われましたように、どの程度の規模のホールにするのかは、内部の検討チームでも議論しています。やはり、300～400席ぐらいの規模の方が、むしろ使い勝手が良いのではないかと思います。新南陽ふれあいセンターは、1080席で、確かに多目的ホールとして、いろいろな目的には使えるのですが、ちょっと広すぎます。身近に使えることと言えば、むしろ300～400席ぐらいのホールにして、1000人規模であれば、新南陽ふれあいセンターを使っていただけないかと思っています。

議長

分かりました。他にございませんでしょうか。それでは私の方から、具体的に、実施に向け、前に踏み出したことに対し、お礼申し上げたいと思います。ただ、是非とも、お願いしておきたいことがあります。これから具体的な工事に入れば、あのエリアの機能が、全部なくなります。そのときは、できるだけ多くの機能を、どこかで補完できるような対策を、ぜひご検討願いたいと思います。その検討は、大変だと思うのですけれども、お願いしておきたいと思います。

(2) 今後の運営について

議長

それでは、もう時間も過ぎましたので、今日の資料をよく読んでいただいて、ご意見をまとめていただいて、あと数回はミーティングを開いて、8月末までには、それを取りまとめていきたいと思います。次回の日程については、大体2週間後ぐらいをめどに、勉強会のような形で、お集まりいただくようになると思います。

それでは今日は、皆さん方ご協力ありがとうございました。

一同

ありがとうございました。